



## 「キリストが 身代わりに 死なれたほどの あなた」

MACF 牧師

関根 一夫

「もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているのではありません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、減ぼさないでください。」(ローマ人への手紙14章15節)

パウロは、どちらかといえば「信仰的に弱い人」のことを「キリストが代わりに死んでくださったほどの人」という呼び方をしています。

私たちの社会では「出来る人こそ素晴らしい存在」として評価し、弱さを持っている人たちは、どちらかといえば「常に下位に置かれている存在」として評価しているような気がします。常に、持っている人が持っていない人を教え、持っている人になるようにと尻を叩いているような図式があります。

それは、教会の中にも入り込んでいると思います。

その視線の中に「この人は、キリストが身代わりになって死なれたほど、神様にとって貴重で大切な存在なのだ」という意識は存在しているでしょうか。

出来ないことは残念なこと、弱さも悲しいことですが、にもかかわらず存在の意義や意味は実とはとて

も大きいのだと思います。

それはキリストが身代わりに死なれたほどの存在だからです。

神様は、御子イエス様のいのちと、社会的にも人間的にも欠けが多く、霊的には救いようのない私たちの存在とを天秤にかけて、あえて、私達を選び、イエス様のいのちを犠牲にしても、私たちに赦しや癒し、救いをもたらそうとしておられるのです。

つまり、神様は、私達に対して「いてくれてありがとう」という心を伝えて下さっているのです。そういう絆こそ「愛」なのだと思います。

私は、いろいろな集会や講演会で「『いてくれてありがとう』と言えますか」というテーマで話をしていますが、この言葉、この挨拶こそ、今の社会に必要なものだと感じています。居場所を提供する言葉でもあり、存在を肯定する言葉でもあるからです。

「東京プレーヤーセンター」(TPC)が毎日礼拝を行っているのは、すべての人達に向かって「あなたを歓迎します。いてくれてありがとう」という挨拶を発信しているのと同じことなのだろうと思っています。

ますます、「東京プレーヤーセンター」の働きが充実し、多くの人たちに対して「こころの休まる居場所」となりますようにお祈りしています。

ホームページ URL:<http://tpc365.com>

facebook



東京プレーヤーセンター

<http://www.facebook.com/tpc365>